



外務省委託
平和構築・開発における
グローバル人材育成事業

Global Peacebuilders Program

令和5年度 事業活動レポート

2023



不死鳥を象ったHPCのロゴは、奇跡の戦後復興を遂げた広島で、紛争後の国を支援する平和構築のプロを育成するというHPCの基本精神を象徴しています。

一般社団法人 広島平和構築人材育成センター (HPC)

<広島本部事務所>

〒730-0053 広島県広島市中区東千田町1-1-61 ナレッジスクエア 1階

<東京事務所>

〒180-8520 東京都武蔵野市吉祥寺本町1-5-1 吉祥寺PARCO 8階

TEL 082-909-2631

FAX 082-553-0910

URL <https://peacebuilderscenter.jp>

コピーライト(C) 外務省
デザイン・編集 一般社団法人広島平和構築人材育成センター (HPC)
発行 令和6年3月

広島平和構築人材育成センター
Hiroshima Peacebuilders Center (HPC)



平和構築・開発の担い手を育てます



平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業とは

本事業は、平和構築および開発分野で国際的に活躍していく人材を養成することを目的とした外務省の人材育成事業です。

令和5(2023)年度は、平和構築および開発分野で今後キャリア形成を目指す方のための「プライマリー・コース」、平和構築・開発分野で10年程度の経験を持ち、同分野で今後更なる活躍を目指す方のための「ミッドキャリア・コース」、プライマリー・コース修了生を中心に、国際機関やNGO等での就職を希望する方に、平和構築・開発分野のポスト獲得に必要なスキル・知識を提供する「キャリア構築支援」を実施しました。

本事業は、外務省委託事業として、前身である「平和構築人材育成事業」から今日の「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」に至るまで広島平和構築人材育成センター(HPC)が運営にあたり、プライマリー・コースの海外派遣は主として国連ボランティア計画(UNV)が実施しています。

国際的支援に貢献する意欲に満ち溢れた人材が、さらにその意欲を高めるために

平和構築の人材育成のための事業であれば、平和構築に関心を持つ者が事業運営にあたるべきではないか。その気持ちだけで、この事業を始めました。17年間にわたり、多くの方々と知り合うことができました。今や多くの研修員・修了生が、世界中の様々な組織で、平和構築に貢献しています。運営者として、本当に誇りに感じています。また、かつてHPCに勤務した元職員たちが、今は国連・政府・NGOを通じて、平和構築関連の現場・組織で働いていることも、嬉しく思います。平和構築を志す多くの方が、HPCを媒介にして飛躍し、活躍し続けています。

この事業の主役は世界中で平和構築や開発に貢献する、研修員・修了生の方々です。ですから、本事業の運営にあたっては、主役のために何ができるか、という考え方に徹底的にこだわりたいと考えています。幸いなことに、本事業を多種多様な関係各機関が支援してくれています。さらには、長い事業運営を通じて、すっかり事業のファンになってしまった講師層をはじめとする分厚い専門家層の支援者の方々もいます。人材育成は、簡単に結果が見えてくることはない、息の長い作業です。しかしそれだけに醍醐味のある活動です。HPCは、本事業をいっそう発展させてくれる新しい仲間をこれからも歓迎します。



篠田 英朗

HPC代表理事/平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・ディレクター/東京外国語大学教授
ロンドン大学(LSE)Ph.D.(国際関係学)。平和構築などに関する著作・論文多数執筆。代表作:『平和構築と法の支配』(大佛次郎論壇賞)、『国家主権という思想』(サンタリー学芸賞)、『集団的自衛権の思想史』(読売・吉野作造賞)、『Partnership Peace Operations』など。



本事業に至るまで



紛争に苦しむ国々に対し、平和の定着や国づくりのための協力を強化し、日本の国際協力の柱とするための検討を行うため、平成14(2002)年、「国際平和協力懇談会」(明石康・座長)で報告書がとりまとめられました。

また、平成18(2006)年8月、国連大学で開催された「平和構築を担う人材とは・アジアにおける平和構築分野の人材育成に関するセミナー」で「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」の立ち上げが表明されました。これを受け、平成19(2007)年に「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」が開始され、平成21(2009)年から「平和構築人材育成事業」として本格事業化しました。その後、平和構築分野の人材育成に関する取組を強化するため、「平和構築分野に関する有識者懇談会」(波多野敬雄学習院院長・座長)が議論を重ね、平成26(2014)年4月に岸田外務大臣(当時)に行った提言を受けて、本事業内容が刷新され、平成27(2015)年から「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」として本事業が開始されました。令和2年度の外務省による企画競争の結果、広島平和構築人材育成センター(Hiroshima Peacebuilders Center: HPC)は令和5年度までの事業を担当するとともに、平成19年から通算17年間本事業を実施しています。

これまで実施してきた「プライマリー・コース」に加え、「ミッドキャリア・コース」も実施しています。プライマリー・コースの海外派遣は、国連ボランティア計画(United Nations Volunteers programme: UNV)が実施しています。本事業の修了生は世界各地の国連機関・国際機関の本部および現地事務所、政府機関、NGO等の現場で活躍しています。

広島平和構築人材育成センター(HPC)



広島平和構築人材育成センターは、平和構築分野の人材育成、調査・研究などの事業を目的として創設された一般社団法人です。令和5(2023)年度外務省「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」の各研修コースやキャリア構築支援の実施団体で、過去16年(2007年から2022年)間の事業運営経験を活かしながら通算17年目である令和5(2023)年度の事業を実施しました。

広島の復興の精神を基盤にして、日本の平和主義を反映させながら、世界平和に貢献する人材のキャリア構築を支援する活動を行っています。平和構築・開発援助・人道援助の専門家コミュニティのハブとなることを目指しています。

国連ボランティア計画(UNV)



国連ボランティア計画(UNV)は世界的なボランティアリズムを通して、平和と開発に貢献しています。

UNVはパートナーと協働して、適任で、意欲が高く、十分にサポートされている国連ボランティアを開発プログラムに派遣し、ボランティアリズムの価値と世界的な認識を促進します。UNVは「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」の事業実施パートナーとして、事業の「海外派遣」部門の運営管理を行っています。UNVはおよそ160カ国で活動しており、そのうち約60カ国以上にフィールドユニットが設置されています。UNVは、国連開発計画(UNDP)によって管理され、国連開発計画理事会に報告しています。

CONTENTS

- 平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業とは 02
- プライマリー・コース 03
- プライマリー・コース海外派遣 05
- Senior Mission Leaders' CourseとJPO赴任前研修 06
- ミッドキャリア・コース 07
- キャリア構築支援 09
- 国連の人道援助の最前線で活躍する二つの研修コースの修了生に聞く 11
- ミッドキャリア・コースを通じたキャリア構築 12
- 修了生講師の方々の貴重なご貢献 13
- ピースビルダーズ特集 15
- データで見るキャリア構築 17

本事業で提供する研修コースの特徴

キャリア構築に有益な知識の獲得や実務的な技能の習得をする機会を提供

キャリア構築に有益な知識とは、たとえば平和構築にかかわる様々な議論、現場で活動している主な組織、政策に関する知識のことです。これらを効率的に提供するだけでなく、様々な対応能力が求められる援助調整やプロジェクト運営を意識したシミュレーション形式の演習も取り入れています。チームワークを通じた課題解決という点で実際の業務に近い経験をできるように考慮しています。さらに、国連等の国際機関でのキャリア構築では個人々の多面的なコンピテンシー(業務遂行能力)が問われます。国内研修では、研修それ自体が一つの目標に向かって多国籍のチームがダイナミックな作業をする現場であると位置づけ、コンピテンシー向上のための具体的な経験を積む機会を作り出しています。

キャリア構築への意識を鋭くする環境を提供

自らがどうして平和構築にかかわるのか、どのようにかわるのか、これらのことを考えることは長期的にキャリアを構築する上で重要です。国内研修の機会を通じて平和構築分野に携わる動機や使命感を深めることができるように配慮しています。また、平和構築分野の経験がない方でも国際機関におけるキャリア構築についてイメージを具体化できるよう気付きの機会を提供します。

専門家、実務家、修了生や同期研修員との国際的なネットワーク構築の場を提供

平和構築の現場には様々な学歴、経歴、バックグラウンドを持った人が関わるため、決まったキャリア構築の路線があるわけではありません。様々な人の事例に数多くふれて経験的な知識を広げながら、創造的に自分のキャリアを切り開いていかなければなりません。研修の運営にあたって、知識や経験が豊富な講師陣などの専門家層や修了生との交流を促進し、さらに悩みを語り合え、志を共有する仲間の輪を広げ、信頼関係で結ばれた人的ネットワークを充実させていけるように最大限の配慮をしています。

Primary Course プライマリー・コース

身につくのは、知識、実践、自信、そして人の輪

01

国内研修

2024年1月17日から2月20日までの約5週間にわたって国内研修を実施しました。日本人研修員13名、及びアジア・中東・アフリカ・中南米・大洋州各国の外国人研修員10名が、約5週間にわたり寝食を共にし、ロール・プレイ界各地で活躍する最高水準の講師陣による充実した研修を実施することができました。これによって、研修員が平和構築やグループワーク等を通じて互いに切磋琢磨しました。一部の講師にはオンラインにてご参加いただき、平和構築・開発分野の第一線で活躍する実務家とも人的ネットワークを形成する機会を提供しました。

02

海外派遣

日本人研修員は国内研修修了後、国連ボランティア(UNV)として平和構築・開発分野の現場で活動している国際機関等へ、最大12ヵ月間派遣されます。研修員は、国内研修実施後の2024年3月から順次派遣されることになっています。平和構築・開発分野の専門家になるためには、実務経験が欠かせません。国内研修で習得した理論やスキルなどを現場で実践する貴重な機会となります。なお2023年10月には、研修員と派遣先の円滑なマッチングのために、国連機関駐日事務所の職員の方々と日本人研修員をオンラインでつないで、オリエンテーションを実施しました。また1月17日には、研修員、外務省(及びその他の政府機関など)、国際機関、各国大使館との交流の場として、レセプションを開催いたしました。

03

キャリア構築支援

国内研修開始前から、将来のキャリア・プランづくりを支援しています。国際機関の要職経験者や人事担当者による助言制度などのサポート体制を強化するとともに、他の研修員、国内研修の講師陣、海外派遣先の機関などと研修を通じて幅広い人脈を築くことを支援します。



グループ作業を通じて、多国籍の職場環境でのチームワークの経験に慣れていきます。



広島到着後、まず平和記念公園へ。ピースボランティアさんの案内にしたがって日本の平和と復興について考えます。



講師も研修員も和気あいあい一つのチームになります。

>> 今年度研修員からのメッセージ



外国人研修員 | モハメド・マイガ

私は8年以上にわたり、マリ多元統合安定化派遣団(MINUSMA)を通じて、母国マリのSSR-DDRを中心とした平和活動に貢献してきました。私は日本の原爆からの復興に興味をひかれ、そこからインスピレーションを受けてマリやサヘル地域の平和に貢献するようになりました。インターネットで「広島平和構築人材育成センター」(HPC)を知り、2021年に応募したプライマリー・コースはCOVIDによる渡航制限により実現しませんでした。再度応募した2023年度のプライマリー・コースには、直接参加することができました。

5週間の集中的なテーマ別ワークショップ/セミナー(分析、立案、調整、管理)による能力構築により、自分のスキルと知識を効果的に磨くことができました。実践的なシナリオ、チームビルディング、交流、イブニングセッション、エクスカーション、そして多様な素敵な講師の方々など、豊かな学習環境の中に身を置くことができ、期待以上の経験をすることができました。プログラムでは、効果的な平和構築のための人的資源のエンパワーメントやネットワークの構築に重点がおかれ、参加者はどのような環境においても前向きな変化をもたらすことができるようになったと考えています。

最後に、日本の外務省がこのような、世界の平和構築と開発へのコミットメントを反映したプログラムを支援することは素晴らしいと感じています。私自身が誰かの変わるきっかけになれば幸いです。このプログラムに参加することで、他者に伝えたいような変化が訪れます。HPCは、より平和でより良い世界を築くための希望の光であると信じています。



日本人研修員 | 椎葉 渚

プライマリー・コースでは、平和構築と開発に関する基礎知識を獲得するための包括的なカリキュラムが提供されています。国連や援助機関で豊富な経験を持つ講師陣による講義や、グループワークで構成されたコースワークを通じて、分析、立案、実施、評価のプロセスを実践的に学ぶことができました。平和構築や人道支援の第一線で活躍してきた講師や修了生との数日間の交流では、キャリア形成やライフワークバランスなどについて貴重なアドバイスをいただくことができました。また、国内外から参加した同期の研修員とは、同じ志や悩みを共有し、互いに学び合う関係を築くことができたことは、今後の人生の財産です。私は開発途上国における気候変動への適応を専門としていますが、さまざまなバックグラウンドを持つ講師陣や研修員と過ごす中で、気候変動問題と平和構築との関連など、より広い視野で課題に取り組むことができるようになったと感じます。国内研修で学んだ問題解決能力を活かし、今後のUNVとしての海外派遣で得る経験を通じて、自身が目指すキャリアに大きく近づきたいと思っています。

>> 国内研修の様子



グループ演習は、プレゼンテーションのスキルを磨く機会でもあります。



キャリア構築に必要な知識とスキルは何か。皆で考えていきます。



修了証を手にして、仲間たちと、安堵と達成感をかち合います。



HPCも研修員と一緒にいつも学んでいます。

令和5(2023)年度プライマリー・コース:国内研修カリキュラム・講師紹介

Initial Week

開講式・外務省副大臣表敬実施・自己紹介プレゼンテーション・チームビルディング・平和構築の紹介・コンピテンシー(業務遂行能力)の紹介・陸上自衛隊駒門駐屯地訪問

実地講師

篠田 英朗
HPC代表理事/東京外国語大学教授

上杉 勇司
HPCコースメンター/早稲田大学教授

Workshop1: アナリシス

紛争分析の理論と様々な方法
政治的・法的分野の政策的課題

実地講師

デズモンド・モロイ
カンボジア、バタンバン平和紛争研究センター コンサルタント / 元・国連ハイチ安定化ミッション(MINUSTAH)及び国連シエラレオネ派遣団(UNAMSIL) DDR部門長

マジゲヌ・イナ・ディア
国連西アフリカ・サヘル事務所(UNOWAS) サヘルチームリーダー・上級政務担当官

藤原 広人
国際刑事裁判所(ICC)書記局/対外活動局 国別分析ユニット長

リサ・リーフキ
国連アフガニスタン支援ミッション(UNAMA) 政務部上級政務担当官

篠田 英朗 / 上杉 勇司

オンライン講師

小野 京子
国連人道問題調整事務所(OCHA) ミャンマー副事務所長

シモネッタ・ロッシ
国連シエラレオネ常駐調整官事務所(UNRCO) 平和・開発アドバイザー

ジョマート・オルモンペコフ
国連政治・平和構築局(DPPA) 政務担当官

Workshop2: プランニング

活動計画の立案の手法
安全保障分野(DDR・SSR・PKOミッション等)の政策的課題/人事

実地講師

西谷 佳純
国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS) ジェンダー・ユニットチーフ/上級ジェンダーアドバイザー

赤尾 邦和
国際移住機関(IOM)ティグレ事務所支所長・ウクライナ戦略的連絡担当官・エチオピア事務所持続的解決マネージャー

平原 弘子
国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS) 民政部長

ウマル・バ
元・国連マリ多面的統合安定化ミッション(MINUSMA) ガオ地域事務所長

石原 朋子
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) 保護官

マイケル・エメリー
国際移住機関(IOM) 人事部長

馬目 美奈子
国連開発計画(UNDP) シリア事務局 前駐在副代表代理

篠田 英朗 / 上杉 勇司
デズモンド・モロイ

オンライン講師

渡辺 愛子 国連平和活動局(DPO) プログラム管理官

キャリア・デザイン

キャリアコンサルタントとして人材育成・活用に関するコンサルティング及び研修に従事

実地講師

佐藤 知央 オフィスクラッチ代表

Workshop3: コーディネーション

多様な組織間の業務調整・交渉の手法
人道援助活動の政策的課題/コミュニケーションスキル

実地講師

忍足 謙朗
元・国連世界食糧計画(WFP) アジア地域局長

末藤 千翔
国境なき医師団 活動副代表

ギヨム・フォリオ
国連システム・スタッフ・カレッジ(UNSSC) 上級アドバイザー

鈴木 恵理
国連児童基金(UNICEF) ケニア児童保護チーフ

ジョン・キャンベル
セキュリティ・コンサルタント/元国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) アジア太平洋安全アドバイザー・eセンターコーディネーター

ピーター・コゼレッツ
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) グローバル・プロテクション・クラスター、臨時副コーディネーター

舛岡 真理
国連世界食糧計画(WFP) アフガニスタン事務所 サプライチェーン担当官

篠田 英朗 / 上杉 勇司 / 石原 朋子

Workshop4: マネジメント

プロジェクト・マネジメントの手法
様々なファンドスキームを通じた開発援助活動の政策的課題

実地講師

小松原 茂樹
国連開発計画(UNDP) タンザニア連合共和国事務所常駐代表

藤村 梨紗
国連開発計画(UNDP) シリア事務所 プログラム専門官

中村 俊裕
NPO法人コペルニク(Kopernik) 共同創設者兼CEO / 大阪大学大学院国際公共政策研究科招聘講師 / 元・国連開発オペレーション調整事務所(UNDOCO) 政策専門官

桑田 弘史
国連開発計画(UNDP) ニューヨーク本部危機局 国事務所サポート管理チーム、プログラム専門官ヨーロッパ・中央アジア担当

ママドゥ・ンダウ
国連開発計画(UNDP) 政策アドバイザー・クオリティ計画化チームリーダー

由佐 泰子
政府連携担当官 WFP国連世界食糧計画 日本事務所

ベトロック・ウィルトン
前国連世界食糧計画(WFP) ソマリア事務所 コミュニケーション部門長

篠田 英朗 / 忍足 謙朗
舛岡 真理 / 末藤 千翔

オンライン講師

熊丸 耕志
国連開発計画(UNDP) マーシャル諸島、GCF水の安全保障プロジェクトマネージャー

大塚 玲奈
国連開発計画(UNDP) ニューヨーク本部自然・気候変動部 デジタルイノベーションチームリーダー

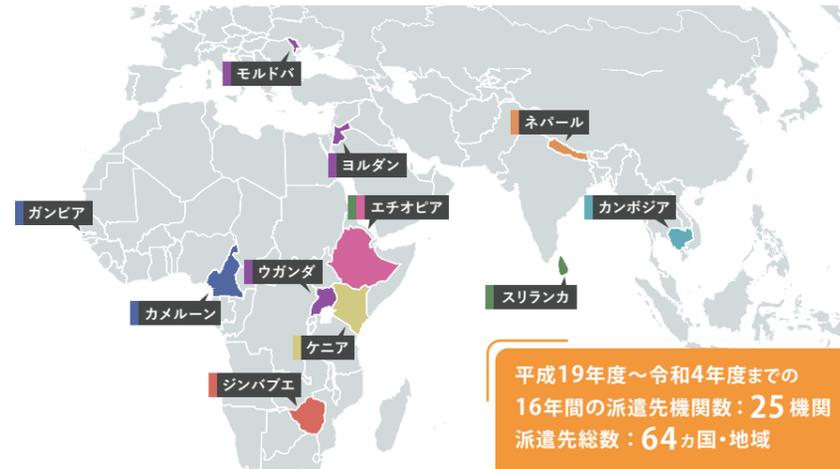
安全管理術

実地講師

ルイス・ロビンソン
InSiTuトレーニングディレクター/上級人道支援アドバイザー・安全トレーニング専門家
篠田 英朗 / 忍足 謙朗 / 末藤 千翔



- 国連開発計画 (UNDP)
ジンバブエ共和国
- 国連プロジェクトサービス機関 (UNOPS)
ネパール
- 国連開発調整事務所 (UNDCO)
ケニア共和国
- 国連児童基金 (UNICEF)
エチオピア連邦民主共和国、スリランカ民主主義共和国
- 国連常駐調整官事務所 (UNRCO)
カンボジア王国
- 国際移住機関 (IOM)
カメルーン共和国、ガンビア共和国
- 国連高等難民弁務官事務所 (UNHCR)
ウガンダ共和国、モルドバ共和国、ヨルダン
- 国連世界食糧計画 (WFP)
エチオピア連邦民主共和国



平成19年度～令和4年度までの
16年間の派遣先機関数：25 機関
派遣先総数：64 各国・地域

- UNDP (国連開発計画) / 49名
- UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) / 39名
- UNICEF (国連児童基金) / 39名
- IOM (国際移住機関) / 18名
- WFP (国連世界食糧計画) / 18名
- UN Women (国連女性機関) / 9名
- UNRCO (国連常駐調整官事務所) / 8名
- UNOPS (国連プロジェクトサービス機関) / 5名
- FAO (国連食糧農業機関) / 3名
- OCHA (国連人道問題調整事務所) / 3名
- UNFPA (国連人口基金) / 3名
- UNMISS (国連南スーダン共和国ミッション) / 3名
- UNODC (国連薬物犯罪事務所) / 3名
- WHO (世界保健機関) / 3名
- UNESCO (国連教育科学文化機関) / 2名
- UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) / 2名
- IDEA (民主主義・選挙支援研究所) / 1名
- Office of UN Funds and Programmes Cape Verde (国連基金・計画カーボベルデ事務所) / 1名
- UNDCO (国連開発調整室) / 1名
- UNDRR (国連防災機関) / 1名
- UNFICYP (国連キプロス平和維持隊) / 1名
- UN-Habitat (国連人間居住計画) / 1名
- UNIOGBIS (国連ギニアビサウ統合平和構築事務所) / 1名
- UNMAS (国連地雷対策サービス部) / 1名
- UNAMID (ダルフルール国連AU合同ミッション) / 1名
- UNMIS (国連スーダンミッション) / 1名

※PKOミッションへは本事業終了扱いで派遣されています。

国連ボランティアとして積む、 平和構築・開発の現場での実務経験

海外派遣では、国連ボランティアとして国際機関での実務に従事します。これによって、国内研修で習得した理論やスキルを現場で実践すると同時に、実務経験を積みながら現場での活動のノウハウを習得します。これまでの事業では、国連開発計画 (UNDP)、国連児童基金 (UNICEF)、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、国連世界食糧計画 (WFP)、国際移住機関 (IOM) といった国連機関が主な受け入れ先となりました。派遣先の地域もアフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、東南アジア、中央アメリカなど非常に多岐にわたっています。



<国連児童基金 (UNICEF) / エチオピア>
エチオピアのソマリ州にある国内避難民キャンプにて、フォトジャーナリング研修を受けた若者がキャンプ内で撮影した写真データを見ながらフィードバックをしている様子。



<国連開発計画 (UNDP) / ジンバブエ>
「Japan SDGs Innovation Challenge for UNDP Accelerator Labs」害鳥駆除に関するプロジェクトの出張



<国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) / ウガンダ>
Associate Protection Officerとして派遣されたUNHCRにて、担当したブルンジ難民の自発帰還事業において、ブルンジ難民に対し事業の趣旨や帰国までのプロセス、帰国後に受けられる支援について説明している際の様子。

Senior Mission Leaders' Course と JPO 赴任前研修



国連シニア・ミッション・リーダーズ・コース

国連シニア・ミッション・リーダーズコース (UN Senior Mission Leaders' course: SML) は、国連が国連PKO (平和維持活動) ミッション等の幹部候補生に対して行う研修コースです。SMLそのものがグローバル人材育成事業の活動であるわけではありませんが、令和5年(2023年)は日本政府がホストとなって東京でSMLコースが開催されたため、HPCが運営事務を担当することになりました。HPC代表の篠田は、National Course Directorとして、開催準備にあたり、約2週間にわたるコース期間中は運営の全体を取り仕切りました。コース参加者は、国連PKOミッションにおいて最高位の指導ポスト候補となりうる部長級 (D2レベル) の現役の文民幹部職員や、将来の軍事司令官や警察コミッショナーの候補となる豊富な経験を持つ軍人・警察官が、日本を含む様々な国から総勢26名集まりました。講師として来日したのは、国連PKOミッションで、事務総長特別代表 (Special Representative of the Secretary-General: SRSG) や軍事司令官、警察コミッショナーといった高位の地位に就いた経験を持つ方々ばかりでした。このような参加者と講師との間で、国連平和活動ミッションの現状や課題等につき議論を行い、交流を深めることができました。



JPO 赴任前研修

JPO (Junior Professional Officer) は外務省が行っている国連への派遣プログラムです。JPO合格者に対する4日間の赴任前研修については、10月29日から11月1日までの期間に実施されました。COVID-19の影響が広がった時期から、オンラインで、二つのグループに分けて、遠隔地にいる候補者の方々も対象にして、実施しています。中心的な講師として、UNICEFで人事の専門家としてご勤務された経験をお持ちの垂井美枝子さんに研修を担当していただいています。



世界中にいる修了生に届くキャリア構築支援

採用のプロセスと仕組みを理解し、戦略的に応募の準備をするコツを知る

修了生のキャリア構築を継続的に支援するため、研修修了後にご活用いただける様々なサポートを用意しています。また、より良いキャリア構築支援を行うため、毎年、その改良を重ねています。

キャリア構築カウンセリング

プライマリー・コース研修員・修了生、及び他のコースの参加者を対象に玉内みちるシニア・アドバイザーによるカウンセリングを継続的に実施。受講者はこれまでの経験・専門性を振り返りつつ、自身のさらなるキャリアの発展に役立つアドバイスを受けています。



研修員と談笑するキャリア・デザイン担当の佐藤知典講師



玉内 みちる | HPCシニア・アドバイザー(キャリア構築支援)

ポスト・コロナの時代における平和構築と国際開発・協力のキャリアは、大きな転換期を迎えています。世界規模で、環境、社会、政治、国際関係の仕組みに関わる「あり方」が根本的に再編成されていく中、HPCの実践的なグローバル人材育成プログラムの重要性がこれまでにないほど求められていると思います。なぜなら、パンデミック後に必要とされるグローバル人材のスキルセットはかなり違ったものになりつつあるからです。例えば、確固な専門知識はもとより、従来大切だとされてきた「リーダーシップ力、コミュニケーション力、そして調整力」などに加えて、データリテラシー(データの読解力と運用の能力)や、想定外のシナリオにも立ち向かえるフレキシビリティやイノベーション力もキャリア構築の不可欠要素となってきています。

そのため、グローバル市場にて即戦力となるためのトレーニングを経験し、さらに自分自身の能力を磨いていくことがますます大切となってきます。HPCでは、一歩先を見据え、長年培った国連・国際機関との豊富なネットワークを活用してコロナ危機後の国連・国際機関職員に求められる新しいスキル、能力やコンピテンシーを、皆様に提供しております。未だかつてない、この大変革の時代に、国際的なキャリアを目指す皆様にとって、このHPCのプログラムは、かけがえのない体験となることでしょう。

修了生専用Webサイト

「国際機関等において当該分野のポストを獲得し、更には上位のポストに就いていくこと」を目指す修了生のキャリア構築を支援するため、プライマリー・コース/ミッドキャリア・コース日本人修了生専用のウェブサイトページを2023年度も運用し、キャリア構築支援の拡充を図るための事業として、以下6つのコンテンツを提供しました。



- 01. オンライン・サロン**
世界中に散らばる修了生を対象に個別的なテーマを設定し、ゲストを招いて付加的な専門的知識の付与、国連機関などの人事動向に関する情報共有、修了生間のネットワークの拡充などを図っています。
- 02. オンライン・セミナー集**
これまでに開催された国連機関でのキャリア構築やメンタルヘルスに関するオンラインセミナーの動画や、修了生講師の方々へのインタビュー動画などを掲載しています。
- 03. ライフイベントの費用補填**
HPC独自のイニシアチブとして、ライフイベントに関する費用補助を行っています。
- 04. メンタリング・サービス**
本事業にご貢献をいただいている講師に許可を取り、プロフィール・現職肩書・駐在機関の一覧を掲載しています。修了生が講師層にキャリア構築に関する具体的な相談等を、HPCを介して開始できる機会を提供しています。また、修了生の相互交流の機会を充実させるため、許可をいただいた修了生の現職一覧を掲載し、相互に連絡を取り合えるように配慮し、相互ネットワーク構築の機会を促進しています。
- 05. オンライン研修**
本事業のプライマリー・コース及びミッドキャリア・コース修了生の特典として、豊富な経験に裏打ちされた講師陣による国連でのリモートワークに関するアドバイスや、POTI (Peace Operations Training Institute) Eラーニング・コースを無料で提供しています。米国を拠点に活動するNGOであるPOTIとの連携の下、POTIが提供する29の平和活動に関連するEラーニング・コースを無料で受講することができます。また、各コースを受講し、最終テストにて75%以上の得点を獲得された場合、POTI代表者及び法人代表理事の署名が入った修了証明書が発行されます。また、各コースの修了証明書に加えて、指定のコースを受講することで、POTIが発行している6分野における「POST (Peace Operating Specialized Training) Certificate」を取得することも可能です。その他、オンラインで受講できるPOTI以外の一般向け研修なども案内しています。
- 06. キャリア・ドック(キャリアの自己定期検診)**
毎年プライマリー・コースで日本人研修員向けにOffice CLUTCHの佐藤知典講師を招いて行なっている「キャリアデザイン研修」の内容を発展拡充させ、修了生が定期的に自身のキャリアを見つめる機会を提供しています。「キャリアデザイン研修」は研修終了から時間が経っている修了生らに対し、自分のキャリアと向き合い自信へつなげることや、課題を把握してキャリア・プランの充実への意識化を図ることを目的としています。また、具体的な相談やカウンセリングを希望する修了生にはHPCを介して講師と連絡出来る機会を提供しています。

オンライン・サロン

キャリア構築支援により力を入れていくため、修了生のニーズに合わせた支援・情報提供を行っていくことを目的としたオンライン・サロンの運営を行っています。ここでは、その様子を紹介します。

オンラインで行うことで、対面での参加が難しい方に対しても充実した支援が行えるようになり、また、後日視聴もできるように修了生専用Webサイトにビデオを載せることで、時間に縛られず、いつでも修了生が関連情報を入手できるようにしています。プライマリー・コース及びミッドキャリア・コースの修了生に参加していただき、層の厚い修了生間の貴重な情報やネットワークを共有していただく機会を提供しています。これにより更に充実度の高いキャリア構築支援を提供することができています。



HPC代表理事篠田によるファシリテーションの場面

オンライン・サロン 実施記録一覧 2023年度(令和5年度)

- 第1回「スーダン情勢について」(2023年4月22日)
- 第2回「危機的状況における人道援助」(2023年6月3日)
- 第3回「Addressing Mis&Disinformation in UN Peacekeeping Settings」(2023年8月10日)
- 第4回「今年度プライマリー・コース合格者と修了生のネットワークづくり」(2024年1月14日)
- 第5回「国際刑事裁判所(ICC)における日本人のキャリア構築」(2024年1月20日)
- 第6回「JPO派遣候補者選考試験の合格に向けた情報交換会」(2024年2月25日)
- 第7回「キャリア構築のためのメンタルヘルス」(2024年3月16日)
- 第8回「キャリア構築のためのコーチング」(2024年3月17日)

2023年4月から2024年3月で、計8回行いました

令和5(2023)年度プライマリー・コースに講師として参加した修了生



各地で活躍する修了生講師とのネットワーク構築

修了生の中には国際機関の多種多様な活動の現場で、自分のチームを率いて、プロジェクトの責任者となっている人材もいます。そのような修了生の方々の研修講師としてお招きすることは、最前線である現場の様子を知るためだけでなく、キャリア構築の実例を知るためにも、大変に有益です。今年度のプライマリー・コース研修においても、対面で、あるいはオンラインで、何人もの修了生の方々に講師としてご貢献いただきました。修了生講師との関わりは、研修員にとっては、現場で直接の上司になるクラスの国連職員の考え方を把握できるだけでなく、自分のキャリア構築のイメージを得られる貴重な機会となりました。

以下では、事業修了生として今年度プライマリー・コースの研修に講師としてご参加くださり、現在の研修員に自分のキャリアについて深く考える機会を提供してくださった方々をご紹介します。

プライマリー・コース修了生

- 鈴木 恵理 (平成19年度修了生)
国連児童基金(UNICEF) 児童保護チーフ
- 渡辺 愛子 (平成20年度修了生)
国連平和活動局(DPO) プログラム管理官
- 馬目 美奈子 (平成21年度修了生)
国連開発計画(UNDP) シリア事務局 前駐在副代表代理
- 熊丸 耕志 (平成23年度修了生)
国連開発計画(UNDP) マーシャル諸島、GCF水の安全保障プロジェクトマネージャー
- 石原 朋子 (平成24年度修了生)
国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 保護官
- 藤村 梨紗 (平成24年度修了生)
国連開発計画(UNDP) シリア事務所 プログラム専門官
- 舩岡 真理 (平成25年度修了生)
国連世界食糧計画(WFP) アフガニスタン事務所 サプライチェーン担当官
- 桑田 弘史 (平成25年度修了生)
国連開発計画(UNDP) ニューヨーク本部 危機局国事務所サポート管理チーム、プログラム専門官ヨーロッパ・中央アジア主担当
- 由佐 泰子 (平成26年度修了生)
国連世界食糧計画(WFP) 日本事務所 政府連携担当官
- 大塚 玲奈 (平成28年度修了生)
国連開発計画(UNDP) ニューヨーク本部 自然・気候変動部 デジタルイノベーションチームリーダー

ミッドキャリア・コース修了生

- 末藤 千翔 (令和2年度修了生)
国境なき医師団 活動副代表
- 赤尾 邦和 (平成30年度修了生)
国際移住機関(IOM) ティグレ事務所支所長・ウクライナ戦略的連絡担当官・エチオピア事務所 持続的解決マネージャー

国連の人道援助の最前線で活躍する 二つの研修コースの修了生に聞く



並木 愛 Ai Namiki

並木愛さんは、現在、WFP(国連世界食糧計画)バングラデシュ事務所に勤務し、国連を通じた人道援助の最前線で活躍しています。並木さんは、2016年度プライマリー・コースに参加した後、UNVとしての海外派遣ではジンバブエで勤務しました。その後、JPO(Junior Program Officer)としてWFPルワンダ事務所でも活躍しました。さらなる飛躍のステップとしてミッドキャリア・コースに参加した後、WFPスーダン事務所でも活躍しました。スーダンで勤務中の2023年4月に武力衝突が勃発し、首都ハルツームでも戦闘が広がりました。大変な状況の中、しばらくケニアのナイロビに退避し、リモートワークを通じてスーダンの人々のために引き続き献身的に取り組まれました。その後、バングラデシュに転任しました。それぞれの勤務地で、部下であるたくさんの現地スタッフから信頼を得てきました。グローバル人材育成事業の意義をよく理解し、それを職場で活かしている方です。その並木さんに、二つの研修コースそれぞれの魅力を語ってもらいました。

Mid-Career Course ミッドキャリア・コース

応募動機

JPOの最終年に勤務していた事務所で3つのチームの責任者を任された際に、チームメンバーの満足度とチームパフォーマンス向上の両方に貢献できるリーダーになりたいと思っていました。そこで、人道支援分野でのマネジメントについて実践的かつ集中的に学ぶ機会を得られると考え、ミッドキャリア・コースに応募しました。以前プライマリー・コースに参加して大変実り多い経験を得られ、HPCの研修コースや講師陣へ絶対的な信頼感があったことも応募の大きな後押しとなりました。

研修参加前のキャリア

2017年にプライマリー・コースに参加し、プライマリー・コースのUNV海外派遣では国連WFPジンバブエ事務所でも食料安全保障分析担当官として勤務し、在職中にJPO派遣制度に合格し同ルワンダ事務所にてジェンダーと保護官として勤務しました。

研修修了後のキャリア

研修参加直後に国連WFPスーダン事務所でも正規職員に登用されました。ジェンダーと保護部門長として1,000万人の難民及び、避難民への緊急支援活動に従事後、2023年12月からは同バングラデシュ事務所のレジリエンス部門長として小規模農家の生活向上、起業家支援等を担当する予定です。本コースで一番印象に残っているのがリーダーとしてナショナルスタッフに寄り添い、彼らと一緒に成長するためのコミュニケーションスキルや心構えを得ることができたことです。その結果、上司からは自分なりのリーダーシップスタイルを高く評価していたり、異動日にはナショナルスタッフが本当に良いリーダーだったと泣いて伝えてくれたことが大きな励みとなりました。

ミッドキャリア・コースの魅力

本コースの魅力は何といっても実践的な学びの機会に溢れていることです。自己の感情を感じ取ることや自分の感情をコントロールすること、他者を尊重できることに優れた講師や参加者と一緒に学ぶことができました。多様な人々の集う国際機関で働く際に大切なことについて、このように多様なバックグラウンドを持つ人々と集中して学べる経験は極めて貴重です。講師の方々からのフィードバックや心に響いたキーワードを書き留めたノートは今でも宝物です。



ミッドキャリア・コースを通じたキャリア構築



赤尾 邦和 平成30(2018)年度ミッドキャリア・コース修了生

私はIOMに短期コンサルタントとして参加し、その後に一般公募でIOMの正規職員になりました。その経緯から、JPOやHPCプライマリー・コースのような赴任前トレーニングを受けずに職員となったため、国連職員として必要なトレーニングを包括的に受講したいと考え、ミッドキャリア・コースに参加しました。また、赴任国のシエラレオネは小さく事務所も職員30人ほどの小規模な体制であったため、他の国連職員とのネットワークの構築も参加動機でありました。

研修参加前のキャリア

民間でビジネスコンサルタントを5年経験した後にJICA本部に2年、JICA在外事務所(スーダン)に2年経験しました。スーダンで保健担当であったため、エボラ出血熱が蔓延していたシエラレオネの保健システム構築事業のプロジェクトマネージャーとしてIOMに参加しました。エボラ出血熱が収まった後は同じくIOMシエラレオネで防災事業、ディアスポラ(海外離散民)を活用した開発事業を形成し、マネージャーとして勤務をしていました。

研修修了後のキャリア

研修修了後は民間企業と連携した職業訓練事業を担当し、マネージャーとして勤務をする傍らIOMシエラレオネ事務所の事業統括として事業の全体管理を行うこととなりました。また、IOMエチオピア事務所に異動した後は西部ガンベラ支所長、北部ティグレのシレ支所長として最大80名(内国際スタッフ5名)を管理しました。官民連携を強みをいかにして、シエラレオネでは10社との連携を実現し、IOMウクライナで戦略的リエゾンオフィサーとしても勤務し、民間企業と連携した事業形成も行いました。HPCのミッドキャリアで身につけたマネジメントスキルのおかげでこれらの成果を出すことができたと考えています。さらに、専門性をつける大切さを様々な講師から教わり、官民連携を自分の強みと意識することができるようになりました。

コースの魅力

様々な経験を持つ国連関係者と共に勉強し、繋がりを持てるのが魅力と感じます。国連本部、各種国連機関、世界銀行そしてPKOと分野も担当国も様々な方が講座に参加しており、国連機関の仕事の幅の広さを学ぶことができました。また、ミッドキャリアは短期間ではあるもののHPCの修了生という立場になり、その後様々な勉強会に参加させてもらったり、有償の研修の補助金を頂くなど、フォローアップも各種頂くことができたのも魅力と考えます。



荒木 順子 令和2(2020)年度ミッドキャリア・コース修了生

2020年、現在の職場である国連平和活動局(DPO)のP-4ポストの受験を決め、国連の面接に必要なコンピテンシーの知識とスキルアップのためのコースを探していた頃、ミッドキャリア・コースを知って迷わず応募しました。私のこれまでのキャリアの大部分は防衛省内の仕事であり、国際機関で勤務する実務者との人間関係を構築するきっかけを作りたいと応募した理由の一つです。

研修参加前のキャリア

大学卒業後、陸上自衛隊で約17年勤務し、この間、国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)で情報幕僚として派遣された他、自衛隊の中で国際平和協力活動等の教育や研究を行う部隊や機関で勤務してきました。また外国陸軍との防衛協力・交流の担当をしていた時期もあり、防衛省の中で国際分野に関する業務に携わってきました。

研修修了後のキャリア

2021年1月にコース修了後、国連本部DPOのP-4ポストに合格し、2022年7月からニューヨークで勤務しています。研修間に学んだコンピテンシーの知識や力を入れて取り組んだインタビューの練習は、面接で大いに役立ちましたし、リーダーシップやコミュニケーションスキルは今も日々の業務で活かされています。自己主張の強い同僚たちと仕事をするためにはネゴシエーションスキルも重要であり、講師や参加者から学んだプレゼンテーションスキルも示唆に富んだものでした。2023年9月からは今の職場でチームリーダーもしており、今後はシニアレベルのリーダーシップやマネジメントも活かしたいと考えています。

コースの魅力

国際機関での面接に必要なコンピテンシーの知識や国際機関の勤務で求められるリーダーシップ等、実践的スキルを経験豊富な講師から直接学ぶことができる大変貴重な機会です。またコース終了後の継続的なフォローアップも大きな魅力の一つであり、不定期で開催されるオンラインサロンは、異なる年度に参加したコース修了生とも人間関係を広げ、時の情勢等に応じた新たな話題にも触れる良い機会です。

Primary Course プライマリー・コース

応募動機

平成28(2016)年度修了

大学時代に東日本大震災の復興支援ボランティアとして避難所で活動したことから、人道支援の現場で人々に寄り添い尊厳を取り戻すプロセスに貢献したいと思っていました。企業の医者と言われる経営コンサルティング企業で複雑な問題解決に必要なスキルを身につけていたところプライマリー・コースと出会い、積み上げた知見をどのように人道支援の現場で応用できるかについて世界の実務者から学ぶ絶好の機会であると感じ応募しました。

研修参加前のキャリア

2013年法政大学法学部卒業後、ロンドン大学政治経済学院(London School of Economics and Political Science: LSE)にて国際開発学修士号を取得。在学中は途上国の社会起業、イノベーションについて中心に研究。インドのTATA社のインターンとして被差別民の起業支援に携わった後、新卒でデロイトトーマツコンサルティングに入社し官公庁、及び民間セクターの経営コンサルティング業務に2年半従事しました。

海外派遣での職務内容

国連WFPジンバブエ事務所でもVAM officer(食料安全保障分析担当官)として勤務しました。当時、ジンバブエではインフレーションによる食糧価格の高騰、気候変動による干ばつによる農業の不作、不安定な政治状況などが深刻な問題となっていました。私は、最も立場の弱い人々へ支援を迅速かつ確実に届けるため、全国約100カ所の様々な市場に派遣されたモニタリング担当者として、彼らが報告する食糧価格の変動や現金の入手可能性に関するデータを首都のハラレで分析し、飢餓の原因となる食糧高騰の状況をレポートにまとめ、プログラムの戦略立案の一助となりました。

研修修了後のキャリア

プライマリー・コースへの参加は人生に大きな影響を与えるものとなりました。海外実務研修中にJPO派遣制度で国連WFPルワンダ事務所にも合格し、その後ジェンダーと保護官として勤務を開始しましたが、初日から部署の責任者に任命され初めてのチームマネジメントに奔走した際には研修で学んだことが多く活かされました。特に、国内研修の講師、忍足謙朗さんからいただいた二つの言葉、「正しいことをし、常にフェアであれ」、「ナショナルスタッフを大切にせよ」はその後にスーダン含め紛争下の緊急支援活動でチームが心身ともに特に厳しい状況に置かれた際にいつも頭に浮かぶ大切なメッセージです。

プライマリー・コースの魅力

本コースに最も感謝していることの一つが、第一線で活躍されてきたプロフェッショナルの方々との出会いです。途上国で活躍される実務家、NPO代表、国連人権専門家等、自身が目指す世界で長年キャリアを積んでこられた方々から直接教わる機会は他にないと思います。親身に丁寧に質問に答えてくださり、国内研修が終わった頃には6週間前には想像していなかったほどの大きな自信を得ることができました。

修了生講師の方々の貴重なご貢献



令和5年度事業のプライマリー・コースでは、たくさんの修了生の方々に、講師として研修に貢献していただきました。新型コロナウイルスの影響も去って、世界の人の移動が通常の様子に戻ったところで、事業の歴史の中でも一番多い数の「修了生講師」の方々に、広島に「戻ってきて」いただき、多大なご貢献をしていただきました。

「修了生講師」の皆さんは、プライマリー・コース終了後から数年にわたり、UNDP、UNICEF、UNHCRといった国連主要機関で、素晴らしいキャリアを築き上げてきた方々です。今や立派な各国連機関の活動を支える中堅職員となっています。その実績に裏付けられた自信に満ち溢れた表情で、

国際機関の活動の実際の様子を伝えてくれました。また、非常に親近感を持って聞くことができる具体的なキャリア構築の経験を、多々お話していただきました。

現役の研修員の方々にとっては、「私たちも、この広島の研修会場から始めたのです」という「修了生講師」の言葉が、とても胸に響いたことでしょう。皆さん、食い入るように「修了生講師」のお話を聞き、そして打ち解けた会話を楽しんでいた様子でした。

ここでは広島に「戻ってきて」、対面で研修にご貢献いただき、現役研修員と交流もしていただいた「修了生講師」の方々を、紹介します。



鈴木 恵理 平成19年度プライマリー・コース修了生

日本のNGOでの経験を活かして「第1期生」として平成19年度事業に参加された鈴木さんは、UNV海外派遣では、スーダンに展開する国連・AU合同ミッションのUNAMIDIに勤務されました。しかしその後は、一貫してUNICEFの「子どもの保護」の分野でパキスタンやシエラレオネでキャリアを積み、今や15年以上にわたるご経験をお持ちの専門家となりました。現在は、UNICEFケニア事務所の「子どもの保護」チーフという要職で、ご活躍されています。

プロジェクトを運営するとはどういうことなのか、についてお話される際のいつもの柔和なお人柄と違った真剣な表情がとても印象的でした。広島では、大先輩として、熱血指導にあたっていただきました！



馬目 美奈子 平成21年度プライマリー・コース修了生

国連開発計画（UNDP）シリア事務所 前駐在副代表代理（acting Deputy Resident Representative, UNDP Syria country office）をお務めになられた後、UNDPの次のポストに異動する前の時期をとらえて、広島に来ていただきました。UNDPのシリア国事務所では、駐在副代表代理以前は経済開発・生計手段チームリーダーを長く務められました。その途中で、UNDPのアフガニスタン国事務所やアゼルバイジャン国事務所、サーミアアドバイザーとして緊急対応に

あたられたこともあります。シリアに赴任される前には、UNDPヨルダン事務所やニューヨークのUNDP本部における危機予防・復興局で勤務されていました。プライマリー・コースの一環としてのUNV海外派遣では、UNICEFの東チモール事務所勤務されました。縁があって長くUNDPでご勤務されて、UNICEFでの経験もカントリーチームでの協調に活かしているようです。今後将来が期待される国連邦人職員になりました。広島でも、その丁寧な語り口で、研修員の方々に何度もうなずかせていました！



藤村 梨紗 平成24年度プライマリー・コース修了生

UNDPシリア事務所でプログラム専門官として勤務されている藤村さんは、開発援助と政務の重なる領域で、キャリアを築かれてきた方です。シリアに赴任される前は、UNDPと国連本部政務平和構築局が共同で運営している部署で勤務され、世界中の国連カントリー・チームを束ねる常駐調整官事務所（RCO）に置かれた平和開発アドバイザーの支援などをなさっていました。プライマリー・コースの一環としての海外派遣では、UNDPのパレスチナ

事務所に勤務され、その後に最初のUNDPシリア事務所勤務を経験されました。ニューヨークに赴任されてからは、国連本部事務局の政務局や平和構築支援事務所の職務を歴任され、政務も知り尽くした開発援助の専門家とられました。広島では、そのチャミングなお人柄ならではの魅力を存分に発揮して、後進の指導にあたっていただきました！



石原 朋子 平成24年度プライマリー・コース修了生

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）ウクライナ事務所、緊急対応にずっと対応されてきた後、長めのお休みをとられている期間を使って、研修講師を務めてくださいました。パリ政治学院で修士号を取得されたフランス語にも堪能な才女でいらっしゃいますが、日本でのNGOやジュネーブでのICRC（赤十字国際委員会）などでのインターン等の経験を積んでプライマリー・コースに入られた初志貫徹型の意志の強い方でもあります。UNV海外派遣ではUNICEFキルギスタン事務所に赴任しましたが、JPO試験に合格されてからはUNHCRの主に保護官として、セネガル、シリア、ギリシア、ケニアなどで職務にあたられてきました。UNHCRの業務の性格から、それぞれの国の中の辺境の地で勤務されることが多かったのですが、その都度、着実に職務を全うされてきました。広島でも、自分の目指すキャリアを決めて見失わない生き方に、「格好いい」と魅了される研修員が続出でした！

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）ウクライナ事務所、緊急対応にずっと対応されてきた後、長めのお休みをとられている期間を使って、研修講師を務めてくださいました。パリ政治学院で修士号を取得されたフランス語にも堪能な才女でいらっしゃいますが、日本でのNGOやジュネーブでのICRC（赤十字国際委員会）などでのインターン等の経験を積んでプライマリー・コースに入られた初志貫徹型の意志の強い方でもあります。UNV海外派遣ではUNICEFキルギスタン事務所に赴任しましたが、JPO試験に合格されてからはUNHCRの主に保護官として、セネガル、シリア、ギリシア、ケニアなどで職務にあたられてきました。UNHCRの業務の性格から、それぞれの国の中の辺境の地で勤務されることが多かったのですが、その都度、着実に職務を全うされてきました。広島でも、自分の目指すキャリアを決めて見失わない生き方に、「格好いい」と魅了される研修員が続出でした！



桑田 弘史 平成25年度プライマリー・コース修了生

国連開発計画（UNDP）ニューヨーク本部の危機局国事務所サポート管理チームで、ヨーロッパ・中央アジア担当のプログラム専門官として活躍中の桑田さんは、今は主にUNDPのウクライナ支援を担当していらっしゃいます。ハードシップの環境での職務を次々と全うされてきた桑田さんは、南スーダンにおけるUNDP/UNICEF共同プロジェクト、ブータンにおける常駐調整官事務所（RCO）、国連プロジェクトサービス機関（UNOPS）スーダン

事務所、プライマリー・コースの一環としてのUNV派遣としてのUNDPバングラデシュ事務所などを歴任されてきました。プライマリー・コースに入られる前に勤務されていたJICAでもイラク事務所やスーダン事務所といった厳しい環境に身を置いてきました。そのハードボイルド系の経歴にもかかわらず、笑顔がとても微笑ましい方で、とても仁義に厚いところを広島でも随所で見せてくれました！



舛岡 真理 平成25年度プライマリー・コース修了生

去年の小冊子でも紹介させていただいた舛岡さんは、四年続けて広島で講師をお務めいただいた修了生です。国連世界食糧計画（WFP）のアフガニスタン事務所に所属され、休暇をあわせて、広島に来ていただいています。アフガニスタンに赴任される前は、WFPイエメン事務所、ナイジェリア事務所、本部、ミャンマー事務所でご勤務されていて、困難な環境の中においても光るパフォーマンスを発揮し続けてこられました。民間企業での経験を

を活かしてプライマリー・コースに入れ、WFPミャンマー事務所にUNVとして赴任することになったのは、舛岡さんの「WFPで働きたい」という強い思いがあったからこそでした。それだけにキャリア構築にける意気込みや、考え方の精緻さは、人一倍です。広島では、講師として、メンターとして、コーチとして、大車輪のご活躍で絶大なご貢献をしていただきました！



ピースビルダーズ特集



小松原 茂樹 Shigeaki Komatsubara

国連開発計画 (UNDP) タンザニア事務所 常駐代表
前UNDPマラウイ事務所 常駐代表

篠田英朗 × 小松原茂樹 対談

篠田 プライマリー・コースに長年ご貢献いただいています。このコースの印象を聞かせてください。

小松原 篠田先生にお誘いをいただき、プライマリー・コースに貢献させていただくようになって10年以上が経ちます。プライマリー・コースでは、平和構築分野でグローバルなキャリア構築を目指す日本、アジア、アフリカ、中東、ラテンアメリカ、ヨーロッパから選ばれた研修員の皆さんに自分の経験や視点を提供してきましたが、私自身にとっても多くの学びや気づきを得る貴重な機会となっています。平和構築分野の実践的な知識を集中して学べるだけでなく、多様な背景を持つ参加者と共に学び、議論することを通じて、国際機関などでの仕事に不可欠な人間性(コンピテンシー)を育て、ネットワーク作りにも役立つ、という素晴らしいコースではないかと思えます。



篠田 今のタンザニア常駐代表としてのお仕事の内容について、少しお聞かせください。もし可能であれば、これまでのキャリア全般についても、あわせてお聞かせください。

小松原 私は東京外国語大学(英米語学科)を卒業した後、LSE(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス)で国際関係論の修士号を取得しました。当時から国際機関での仕事には興味があ

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業では、国際平和構築活動に携わられた豊富なご経験を持つ方々や、現在も様々な国際機関で活躍されている方々を講師として招き、示唆に富んだ研修をしていただいております。講師の方々は、将来の平和構築実務家のために模範的な人物としての役割を果たしています。ここでは、本事業のプログラム・ディレクターである篠田英朗が、長年、本事業講師として活躍くださっている小松原茂樹さんにインタビューを行った様子を紹介いたします。小松原講師は、本事業プライマリー・コースに10年以上にわたり講師としてご貢献いただいております。研修員にご自身の豊富な経験に基づいた示唆を与えてくださっています。UNDP常駐代表という高位につかれてからも、毎年、広島にて研修にご貢献いただいております。寛大な指導で多くの研修員の背中を押してくださっています。



篠田 小松原さんご自身は、長く国連あるいはUNDPで働かれていますが、どのようなやりがいを感じていますか。

小松原 国連では、多様な背景や経験を持つ職員が議論を重ねて、加盟国やグローバルな社会が直面する様々な課題に対して、より良い解決策を見つけるように努力しています。国連には190カ国以上が加盟しており、いわば190以上の「常識」があるわけで、分野や課題に関わらず、最初から皆が納得する答えは存在しません。コミュニケーションをとり、お互いを理解し、知恵を絞る中で、より良いアイデアや解決策を見つけています。様々な「常識」の中から、新たなコンセンサスを作り上げていく作業は時間がかかり、忍耐強さが求められるプロセスですが、SDGsのように、加盟国すべてが共有できる考え方や枠組み、あるいは具体的な目標が合意されるのは、国連職員にとっても国連の価値を再確認し、「やりがい」を感じる瞬間です。また、国連というニューヨークやジュネーブの「本部」を連想される方が多いと思いますが、実際には国連職員の大半は「現場」で政府をはじめとする幅広い関係者と一緒に汗をかいています。それぞれの国で、SDGsなど世界共通の合意や目標を背景に、幅広い関係者と相談しながら、それぞれの国の状況に即した開発支援を計画・立案・実施しますが、その結果様々な関係者の仕事や人々の暮らしが改善し、将来の可能性を感じてもらえることが出来るのは、国連職員として自分の存在意義を再認識し、「やりがい」を感じるこのことのできる瞬間です。

篠田 国連でお勤めになられていて、大変なところもあると思うのですが、それにはどのように対処していらっしゃるのでしょうか。

小松原 先述のように、国連職員の大半はニューヨーク、ジュネーブ、ウィーンといった「本部」ではなく現場で汗を流しています。国連が現場を重視するのは、様々な困難や課題も解決策も現場で生まれるからですが、それゆえに国連の仕事では先進国のように整った勤務環境は期待できないのが普通です。自然災害や紛争は予測できないことも多く、そのような状況に直面した際には、「3K(きつい、汚い、危険)」を恐れず、走りながら「今できること、今やらなければならないこと」を考え、行動に移さなくてはなりません。そのような状況では心身ともに負担がかかりますが、目の前の課題をクリアしていくことに集中し、仕事も心配事も自分で抱え込まず、現地から本部まで様々な場所にいる同僚や政府、市民社会をはじめとする任地の関係者と連携し、それぞれの長所を合わせて「チーム」で仕事を進めるようにしています。国連には非常に多様な背景や専門性を持つ職員が集まっていますので、先入観にとらわれず、「オープンマインド」で仕事をすることが厳しい局面を乗り越える力になると思えます。

また、国連職員はどの国の指示も仰がず・受けず、事務総長に忠誠を誓っていますので、仕事や生活の上で「母国」がありません。世界中を転々とするには色々困難も伴います。これは出身に関係なく職員共通の困難です。国連で勤務する中で、例えば「健康、安全、家族」に関することは最優先で、職員同士で助け合うのは当然、という暗黙の了解がありますが、このような助け合いの文化に助けられることも少なくありません。



篠田 小松原さんは、日本の組織にまずお勤めになられてから、国連に転職されました。両方を知る方として、日本の組織と国連の違いを感じることはありますか。また違いがあるとして、それをふまえると、どういう方に国連をおすすめできますか。

小松原 先述の通り、私は経団連事務局にほぼ11年勤務し、それからUNDPに移りましたが、企業や民間セクターと経済開発との関係、という興味関心は一貫していましたので、日本の組織から国連に移っても問題意識を継続して追求することができました。同時にMDGsやSDGsを通じ、世界経済の発展や生活水準の向上に民間資金や民間活力が果たす役割の大きさは、国連でもますます明確に認識されるようになりましたので、経団連勤務を通じて得た知識、経験、ネットワークや、多角的な視点は国連職員としての活動にも大変役立っています。

また、仕事の進め方、という点では日本で強調される「報告、連絡、相談」の「ほうれんそう」や様々な関係者の立場やスケジュールを考えながら仕事を組み立てる力、あるいは「空気を読む」力、などは国連に入ってから大変役立ちました。



ただし、「空気を読む」といっても国連では歴史、文化、背景の異なる関係者の間に立つて、それぞれの気持ちや時間軸を理解しながら、関係者すべてにwin-winとなる解決策を自分が積極的に行動し実現していく、いわばプロデュース能力、が不可欠です。「空気を讀んだ」後に「守りに入る」のではなく「結果を出すために行動する」ことが求められる点には注意が必要です。

国連の活動分野は安全保障から経済社会分野まで多岐に渡り、皆さんの興味関心に応える国際機関は必ず存在します。好奇心が旺盛で先入観にとらわれずに人の話を聞く力がある方(Open mind)、不確実性を「リスク」でなく「チャンス」と捉えられる方、自分の「興味関心(Passion)を生かして、世のため人のために役立ちたい(Mission)と思われる方、目の前の問題を中長期的な視点からも考えることができる方は、ぜひ国連にお越しください。

篠田 小松原さんは、コンピテンシーにも深いご関心をお持ちであり、プライマリー・コースにおいても熱心にご説明をしていただく場面が多々あります。コンピテンシーの重要性について、あらためて簡単にうかがってもよろしいでしょうか。

小松原 コンピテンシーとは、国連のように様々な歴史、分野、社会的背景をもつ職員が集まる多様かつ複雑な環境で効果的に仕事ができる、結果を出すことができる職員に共通して見られる資質、を意味します。国連で仕事をするにはそれぞれの分野の専門知識と活動実績が求められますが、それと同等に重要なのが周囲を巻き込みながら仕事を進め、結果を出していく様々な能力です。コミュニケーション能力、交渉力、計画力、チームワーク、困難に負けない粘り強さ、指導力、ビジョンの提示能力、判断能力など、一見常識のようでも使いこなすのは容易でない様々な能力を、国連では分かりやすく規定し、コンピテンシーの有無をどう判断するか、コンピテンシーを伸ばすにはどうしたら良いか、

などについてもガイダンスを文書で提供しています。コンピテンシーは国連に入ってから職員の将来性やより責任あるポジションへの昇進の可否を判断する重要な材料になっています。

コンピテンシーを身につけ、伸ばしていくことは、国連に限らず、複雑さや不透明性がまず環境において、様々な変化をチャンスと捉え、より良い結果を出していくのに不可欠です。また、コンピテンシーは大学生活や社会人生活の様々な場面で意識して使えば使うほど伸ばすことができます。できるだけ早い時期にコンピテンシーを理解し、実践に移していただければ、国連に限らず将来のキャリア形成に大変役立つのではないかと思います。



篠田 後進の国連職員あるいは国連職員を自指している方に、メッセージをお願いします。

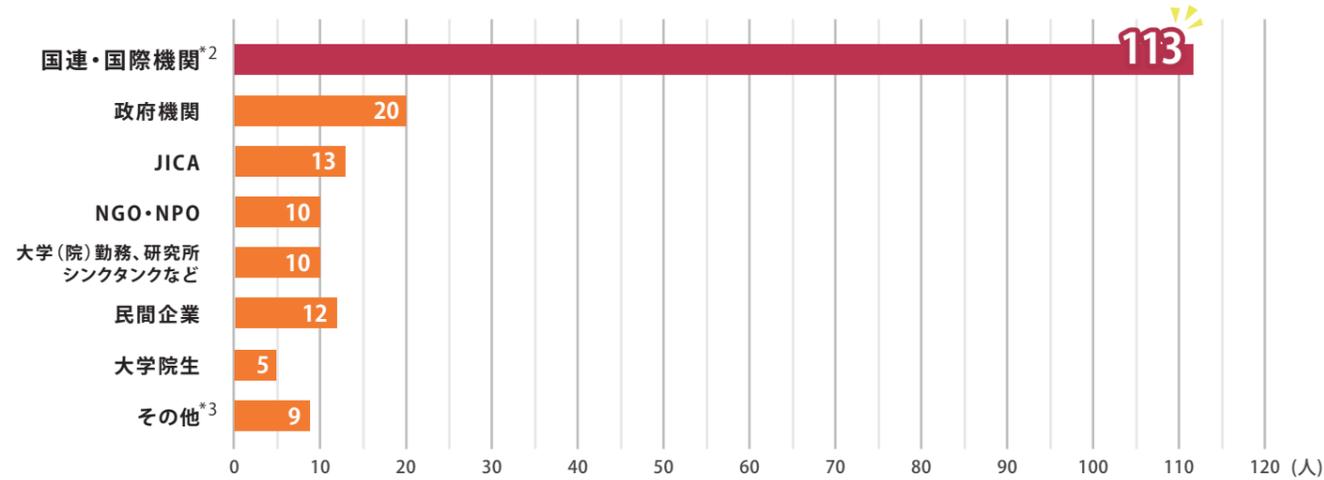
小松原 私がマラウイにUNDPの常駐代表として赴任する前に、上司であるアフリカ局長からいただいたアドバイスに「5つのP」があります。Purpose (自分がなぜ今ここでこの仕事をしているのか、何を達成したいのかが明確であること)、Possibilities (開発の仕事は問題や課題があるからこそ存在しているので、困難があるのは当然である。安易にギブアップせずにあくまで可能性を追求すること)、Personality (最後に人を動かすのは知識でも肩書きでもなく、自分自身の人格、人間力である。プロとして、人間として信頼される存在になるように研鑽を怠らないこと)、Publish (不透明で困難な状況にあってもHopeとPossibilitiesを具体的に提示するのがUNDPの仕事である。そのためには職員自らが積極的に発信していかなければならない)、Pray (どんなに頑張っても結果が出ないこともある。自分ではコントロールできない出来事もある。人事を尽くして天命を待つ、のめ時には大切)の5つですが、不透明さを増す時代でのキャリア形成にぴったりと当てはまる名言だと思いますので皆さんに共有したいと思います。自分の信じる道を、自分を信じて前進してほしい、と心より願っています。



データで見るキャリア構築

プライマリー・コース日本人修了生（平成19年度～令和3年度の15年間の修了生）*1

プライマリー・コース日本人修了生の現在の職業

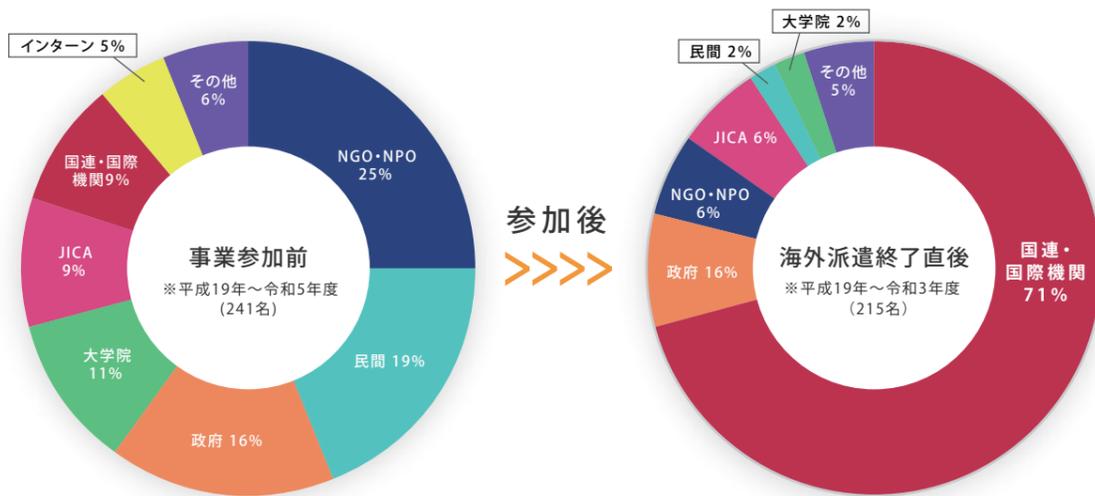


*1 平成19年度～令和3年度までの修了生192名のデータ。過去1年以上確認の取れない23名の方々は含んでいません。

*2 JPOとUNVを含めています。JPO(ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー)とは、日本政府が派遣にかかる経費を負担することにより、将来的に国際機関で正規職員として勤務することを志望する若手日本人が、一定期間(原則2年間)各国際機関で職員として勤務し、正規職員になるために必要な知識・経験を積み重ねる機会を得る制度です。

*3 「その他」には、育児等のキャリア上の理由による活動に従事している方や上記項目以外に従事されている方が該当します。

>> プライマリー・コース研修員・修了生の事業参加前後の職業 >>



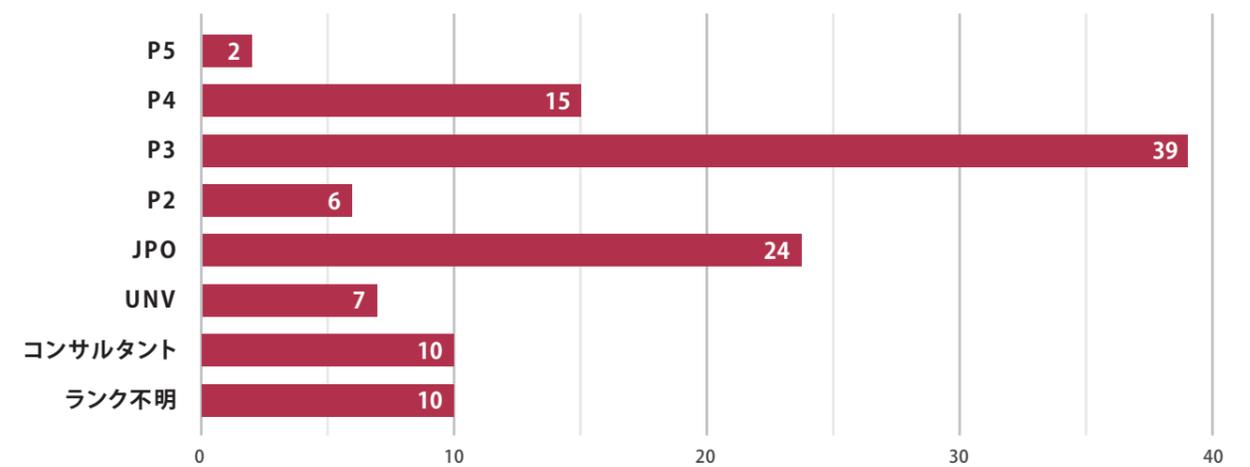
プライマリー・コース修了生が所属する国連・国際機関

- UNICEF (国連児童基金) / 21名
- UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) / 18名
- WFP (国連世界食糧計画) / 11名
- UNDP (国連開発計画) / 10名
- IOM (国際移住機関) / 7名
- World Bank (世界銀行) / 6名
- IFAD (国際農業開発基金) / 3名
- ILO (国際労働機関) / 3名
- DPO (国連平和活動局) / 2名
- OHCHR (国際連合人権高等弁務官事務所) / 2名
- UN-Habitat (国連ハビタット) / 2名
- UN Secretariat (国連事務局) / 2名
- UNRCO (国連常駐コーディネーターオフィス) / 2名
- UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) / 2名
- WHO (世界保健機関) / 2名
- ADB (アジア開発銀行) / 1名
- ICC (国際刑事裁判所) / 1名
- International IDEA (民主主義・選挙支援国際研究所) / 1名
- ITER (国際熱核融合実験炉) / 1名
- OCHA (国連人道問題調整事務所) / 1名
- The Global Fund (世界エイズ・マラリア・結核対策基金) / 1名
- UN Women (UNウィメン) / 1名
- UN Womenおよび紛争下の性的暴力に関する事務総長特別代表事務所 / 1名
- UNCTAD (国際連合貿易開発会議) / 1名
- UNAMI (国連イラク支援ミッション) / 1名
- UNFPA (国連人口基金) / 1名
- UNIFIL (国際連合レバノン暫定駐軍) / 1名
- UNMISS (国連南スーダンミッション) / 1名
- UNODC (国連薬物犯罪事務所) / 1名
- UNOPS (国連プロジェクト・サービス機関) / 1名
- UNSOM (国連ソマリア支援ミッション) / 1名
- UNU (国連大学) / 1名
- UNV (国連ボランティア計画) / 1名
- Unknown (不詳) / 1名

プライマリー・コース修了生の国連・国際機関における勤務地



プライマリー・コース修了生の国連・国際機関における職階



プライマリー・コース修了生の国連・国際機関における役職

- コンサルタント / 7名
- プロテクションオフィサー / 5名
- プログラムオフィサー / 4名
- 児童保護スペシャリスト / 3名
- 教育オフィサー / 3名
- プログラムスペシャリスト / 3名
- プログラムマネージャー代理・テクニカルオフィサー / 1名
- アドミニストレーション・オフィサー / 1名
- 青少年開発オフィサー / 1名
- アソシエイト・アナリスト / 1名
- アソシエイト児童保護オフィサー / 1名
- アソシエイト・エキスパート / 1名
- アソシエイト・商業デジタルエコノミー担当官 / 1名
- アソシエイト生活・経済インクルージョン担当官 / 1名
- アソシエイト政治担当官 / 1名
- アソシエイト・プログラムオフィサー / 1名
- アソシエイト保護担当官 / 1名
- アソシエイト再定住・補完 オフィサー / 1名
- チェンジマネジメントオフィサー / 1名
- 児童保護責任者 / 1名
- コミュニティベース保護オフィサー / 1名
- 契約オフィサー / 1名
- コーポレート・パートナーシップ・スペシャリスト / 1名
- カウンシル&アドミンオフィサー / 1名
- サイバーセキュリティエンジニア / 1名
- デモクラシー・トラッカー・プロジェクトコーディネーター / 1名
- 麻薬管理・犯罪防止オフィサー / 1名
- エコノミスト / 1名
- 教育スペシャリスト / 1名
- 緊急スペシャリスト / 1名
- フィールドオフィサー / 1名
- アソシエイト・商業デジタルエコノミー担当官 / 1名
- ジェンダー・人道コンサルタント / 1名
- ジェンダー専門家 / 1名
- 政府パートナーシップ担当官 / 1名
- ヘッド / 1名
- 日本代表 / 1名
- 調査・評価・モニタリング責任者 / 1名
- 戦略調整部長 / 1名
- HPDネクサス・スペシャリスト / 1名
- 人権オフィサー / 1名
- 人間居住担当官 / 1名
- 人道主義担当官 / 1名
- 政府間担当官 / 1名
- 日本援助関係アドバイザー / 1名
- リード / 1名
- 栄養オフィサー / 1名
- 担当オフィサー / 1名
- パートナーシップ開発スペシャリスト / 1名
- パートナーシップ担当官 / 1名
- 平和維持情報調整官 / 1名
- 政治問題担当官 / 1名
- 調達オフィサー / 1名
- プログラム・アナリスト / 1名
- プログラムコーディネーター / 1名
- プログラムマネジメントオフィサー / 1名
- プログラムポリシーオフィサー / 1名
- プログラム開発・報告オフィサー / 1名
- プログラムマネジメントオフィサー / 1名
- プログラムスペシャリスト / 1名
- プロジェクトコーディネーター / 1名
- プロジェクト開発オフィサー / 1名
- プロジェクトマネージャー / 1名
- プロジェクト・テクニカル・オフィサー / 1名
- プロテクション知識管理スペシャリスト / 1名
- 公共パートナーシップスペシャリスト / 1名
- 広報担当官 / 1名
- 地域調達担当官 / 1名
- レポーティングオフィサー / 1名
- 帰還・再統合オフィサー / 1名
- SDGsコーディネーションオフィサー / 1名
- シニアオペレーションオフィサー / 1名
- シニアパブリック・セクター・スペシャリスト / 1名
- シニア政策アドバイザー / 1名
- シニアプログラムオフィサー / 1名
- シニアプロジェクトサポートオフィサー / 1名
- シニア女性保護アドバイザー / 1名
- 社会保護スペシャリスト / 1名
- サプライチェーン・オフィサー / 1名
- サプライチェーン・オペレーション / 1名
- オペレーションチームリーダー / 1名
- 倉庫担当官 / 1名
- WASHスペシャリスト / 1名
- 不明 / 11名